参考資料③

# 視点１　「当たり前」の安心が続く暮らし

市民の生命と財産が守られ、便利で快適に暮らせる都市環境が整い、自助・共助・公助の連携のもと、誰もが心身ともに健やかで、安全に、安心して暮らすことができる。

山下健一さん（38歳）は、妻・美咲さん（妊娠中）、小2の長女・ひなた、要支援1の母・和子さんと暮らしている。朝、蛇口の水でコーヒーを淹れ、母子保健センターからの妊婦健診の案内を確認する。長女は安全対策の進んだ通学路を通って登校し、母は介護予防教室へ。健一さん自身も特定健診を受ける。通勤は路面電車。昼に届いた防災メールをきっかけに、家族で避難ルートと備蓄、母の個別避難計画を再確認する。午後、母の体調急変で救急車を呼ぶと、医療機関との連携で迅速に搬送され、無事に帰宅。夕方には、補助制度で再生された近所の空き家に若い夫婦が入居すると知る。夜、地元の食材を囲み、ごみを分別し、家族で眠りにつく。「あたりまえの一日」が、明日もまた続いていく —— たくさんの仕組みに支えられながら。

**暮らしの場面と関連する施策**

| | | |
|---|---|---|
| 朝 6:30 | 蛇口の水・妊婦健診の案内 | 施策1-5 上下水道／1-9 妊娠・出産支援 |
| 朝 7:30 | 安全な通学路で長女が登校 | 施策1-4 安全・安心な生活環境 |
| 朝 8:00 | 母の介護予防／自身の特定健診 | 施策1-3 地域医療と健康づくり |
| 通勤 | 路面電車・歩道整備された中心市街地 | 施策1-7 コンパクト・プラス・ネットワーク |
| 昼 | 防災メール・備蓄・個別避難計画 | 施策1-1 防災・減災対策 |
| 午後 3:00 | 救急搬送・医療機関との連携 | 施策1-2 消防・救急・危機管理 |
| 夕方 | 空き家の利活用／耐震改修済の住まい | 施策1-4／1-8 住環境 |
| 夜 | 地元食材・ごみ分別・自然との共生 | 施策1-6 環境保全・循環型 |

# 視点２　「まちの元気」が力になる暮らし

地域の中小企業、農林水産業者、商業者、観光関係者、ここで働くすべての人が、それぞれの強みを活かして付加価値を生み出し、地域の中でお金と人が循環する。

川村美穂さん（45歳）は、母から継いだ商店街の小さな店を切り盛りしている。朝、市の事業承継支援を受けて導入したキャッシュレス決済とPOSレジを立ち上げ、地元農家から届いた朝採れ野菜を店頭に並べる。今年から始めた地元食材を使ったオリジナル惣菜は、6次産業化の取組として市の支援を受けた商品だ。昼前、よさこい祭りを目当てに訪れた観光客が、多言語パンフレットを手に立ち寄り、地元の味を買って帰る。午後はウォーカブル化が進む追手筋を、ベビーカーや観光客が行き交う。夕方、空き店舗を活用したチャレンジショップで開業した若い起業家と立ち話。夜、長女が「地元の食を発信する仕事に興味がある」と話す。美穂さんは、母から自分へ、自分から次の世代へと、このまちで続いていく仕事と暮らしの循環を、確かに感じている。

| | | |
|---|---|---|
| 朝 8:00 | キャッシュレス・POS導入／事業承継 | 施策3-1 地域産業の活力創出 |
| 朝 9:00 | 地元農家の朝採れ野菜が店頭に | 施策3-2 農林水産業の振興 |
| 午前 | 6次産業化で開発した地元食材の惣菜販売 | 施策3-1／3-2（農商工連携） |
| 昼前 | よさこい目当ての観光客・多言語対応 | 施策3-3 観光振興と交流の促進 |
| 午後 | ウォーカブル化された追手筋の賑わい | 施策3-4 中心市街地・商業の活性化 |
| 夕方 | 空き店舗活用・若い起業家との交流 | 施策3-4／3-5（起業・チャレンジショップ） |
| 夜 | 長女が「地元で働きたい」と語る | 施策3-5 雇用・起業・人材確保の促進 |

暮らしの場面と関連する施策